

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：薬学部

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 ○教育の実施体制(組織的なFD, 教員のインセンティブ向上を含む)について ・学生・教員・自己の三者による授業評価のさらなる促進化とともに「ベスト・ティーチャー賞」を制定する。 ○教育方法・内容について ・新カリキュラムの1年目にあたることから、実施・検証体制を確立する。 ・大学病院薬剤部と実務家教員の連携を強化し、実践的かつ機動的な薬剤師(薬学科)教育の充実を図る。 ・ほぼ、100%の大学院進学率(創薬科学科)に耐える基礎的学力の更なる充実をはかる。 ○教育の成果(学習の成果, 卒業後の進路)について ・薬学教育評価機構(薬学科)の第三者評価(本評価)を受けるための評価書を作成する。 ○学生支援について ・少人数による担任制を更に充実し、学習・生活支援体制の強化をはかる。 ○その他 ・「FDフォーラム」等のFD活動をより活発に展開し、更なる教員の意識向上に努める。	自己評価 ①教育領域の ①-1 目標については、ほぼ達成できた(客観的指標参照)。 本目標(特に、三者の評価者による授業評価やFDフォーラム)を継続的に達成できていれば、本領域のPDCAサイクルにおいては、重篤な問題は生じないものとする。ただし、新たに生じた課題としては、 学科間の学力の差異 が浮き彫りになってきたこともあり、教育関連部会を中心に改革案を立案しなければならない時期にある。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ○三者(自己・学生・同僚)による授業評価結果からの検証と授業改善 ○シラバス(活用・記述例) ○国家試験合格率(薬学科)、就職率(創薬科学科・大学院)	
②研究領域	
②-1 目標 ○研究水準及び研究成果等について ・全国に先駆けて開設した「救急薬学」研究分野の発展に全面的に協力する。 ○研究実施体制等の整備について ・若手の科研費の申請書を校正し、指導する等の方法で、科研費等の外部資金獲得に努める。 ・「技術職員室」を発展的解消し、学部としての研究を支援できる業務体制を確立する。 ・前年度の検証のもとに、共同機器およびその室の利用の透明化をはかる。 ○その他 ・教回にわたるフォーラムを通じて、徹底した「研究コンプライアンス」「研究倫理」についての指導・周知を行う。 ・価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報する。	自己評価 ②研究領域の ②-1 目標については、ほぼ達成できた(客観的指標参照)。 新たに生じた課題としては、以下の一点に集約されると捕らえている。 ●研究内容や外部資金執行に関する コンプライアンス遵守の徹底化
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ○論文・著書等の研究業績や学会での研究発表の状況 ○競争的的外部資金受入状況 ○学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト(SSリスト) ○若手教員、女性教員、外国人教員の採用状況 ○共同利用・共同研究の実施状況	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 ○地域社会との連携、社会貢献について ・高校生や一般人を対象に薬学公開講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高める。 ○国際交流・協力、外国人研究者の雇用について ・キャンパス・アジア事業へ積極的に協力する。 ・パリ大学との国際交流を推進する。 ・インド拠点での活動を継続的に発展させる。 ○その他 ・薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献する。	自己評価 ③社会貢献領域の ③-1 目標については、ほぼ達成できた(客観的指標参照)。 本目標を継続的に達成できていれば、本領域に、重篤な問題は生じないものとする。ただし、新たに生じた課題としては、病院薬剤師および薬局薬剤師との 教育・研究面における双方向的連携 が必要と考える。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ○公開講座の実施状況 ○大学の地域貢献・国際貢献への協力	
【総括記述欄】	
薬剤師育成と創薬研究者・技術者育成のための競争力のある学部組織基盤の構築を進めた。その成果を最大限に引き出すためにも、次年度での一層の改革への努力を要する必要がある。	